

日本ブラジル交流100周年

わたしたちは、みな家族

ソモス

トドス

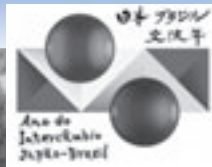
ウマ

ファミリア

# Somos todos uma família!

特集

日伯交流年ホームページ  
http://www.nippaku2008.org/



長島 環さん(老津町)の結婚式  
(1968年/パラ州)

1908年6月18日、神戸港から「笠戸丸」で出港した781人の移民が、ブラジルのサントス港に到着しました。それから多くの人々がブラジルに渡り、その子孫が日本へと移住してきています。彼らが日系ブラジル人です。今回の特集では、日本人がブラジルでどのような歴史を築いてきたかを紹介するとともに、豊橋市と日系ブラジル人とのつながりが生んだ新しいつながりとどのように日本で共生をしているかを紹介します。



問合せ先

国際交流課 (☎51・2023)

右：豊橋ブラジル協会のNPO法人化記念式典  
左：パラナヴァイ市との友好提携の書面を手にするパラナヴァイ市・豊橋市の市長と教育長

## 豊橋市とブラジルとの共生

豊橋市では、全国で2番目に多くのブラジル国籍の人、12785人(平成20年7月1日現在)が生活しています。豊橋市とブラジルとの新しいつながりが広がっています。

### ■ブラジル協会がもたらした協働

豊橋ブラジル協会は2004年9月に、豊橋市で暮らす日系ブラジル人の利便向上、青少年の教育の向上などを目指して日系ブラジル人が設立しました。

豊橋市は、豊橋ブラジル協会が昨年開局したインターネットラジオで、月1回「市長のメッセージ」、週替わりで「市からのお知らせ」をポルトガル語による情報番組として開始しました。

6月にNPO法人格を取得(全国で2例)した豊橋ブラジル協会は、さらなる豊橋市との協働を目指すべく活動の範囲を広げています。

### ■ブラジルとの教育提携

8月7日(現地時間)、パラナ州パラナヴァイ市と教育分野で友好提携を締結しました。パラナヴァイ市のマウリシオヤマカワ市長は日系2世で、豊橋市に2度訪問されたときに、友好提携の提案をされました。

今回の提携により、豊橋市とパラナヴァイ市は連携を一層深め、両市それぞれで暮らす子どもたちの教育環境の整備に向け、さまざまな交流事業を展開していきます。

パラナヴァイ市 人口約8万人で約2500人が日系人。サンパウロから西へ600km、パラナ州北西部山岳地帯の都市で、オレンジ栽培など農業が盛ん。

## ブラジルとのつながりの始まり

移民の歴史から、ブラジルと現在のようにつながりが、なぜできたのかを探ります

### ■開拓者としてブラジルへ渡った日本人

1908年に移民が始まり、戦前に約19万人、戦後に約6万人、およそ25万人の日本人がブラジルに渡りました。

当時の政府は、日露戦争後の不況対策として海外移民を奨励していました。しかし、従来の受入国だったアメリカやカナダなどで、移民の受け入れが禁止されたため、土地が余り農業労働者を求めているブラジルへ、多くの日本人が渡りました。

### ■困難を乗り越え開いた日本人街

初期の移民はコーヒー農園などで契約労働者として働きました。大金を稼ぎ一日も早く帰国するのが目的でしたが、言葉や習慣の違い、暑い気候、監視つききつい労働などで、期待していた金額を稼ぐことができずに逃げ出したり、病に倒れたりする人も多くいました。

しかし、勤勉に働き、多くの人が独立していくと、経済的ゆとりもでき、日本語学校、日本人を相手にした食堂、旅館、本屋などが建てられ、日本語の新聞や雑誌が発行されるようになりました。そして、日本人街ができるまでになりました。

### ■忍ぶ時代 第2次世界大戦

1920年代から外国文化、外国語教育を制限する同化政策がとられるようになりました。また、太平洋戦争が始まり、連合国側のブラジルが、日本との国交を断絶すると、すべての政府関係者が日本へ戻り、移民はブラジルに取り残されました。

### ■終戦 そしてブラジル経済不況

終戦の翌年1946年には日本語新聞が再発行され、国交もやがて回復し、1953年には移民の移住が再開されました。しかし、1980年代中期からの経済不況で、多くの人が、好景気が続く日本へ出稼ぎに来るようになりました。現在約31万7千人(2007年末現在)が、祖父母や両親が生まれた日本で活躍しています。

### ■ブラジルで活躍する日系人

現在、ブラジルは、最初の移民から6世にまで広がった子孫を含め約150万人の日系人が住む世界最大の日系人居住国となっています。3人の大臣や空軍最高司令官を輩出するなど、全人口の1%に満たない日系人が各分野の中枢で活躍しています。

### ■豊橋からブラジルへ渡った人々

1935年には、26世帯154人(昭和十年十月在伯縣人名簿)愛知縣海外協會が豊橋からブラジルに渡り生活していたと記録があります。

東田西郷町出身の田辺倅三さんは、1955年15歳のときにアマゾン川近くのトメアスへ渡りました。そして、5人の子どもに恵まれ、うち3人が豊橋で生活しています。豊橋へ帰省中の田辺さんから、お話を聞きました。

#### 我が故郷、豊橋で暮らす子どもたちへ

ブラジルへ渡った時、ブラジルは私たちをやさしく受け入れてくれました。そして、この国で生活をして行こうと決めました。ブラジルで産まれるとブラジル国籍になりますが、子どもたちには幼いときから、日本人であることも教えてきました。そして、日本語も教えました。息子たちが豊橋で生活をしているのは、私の故郷なのだからかも知れませんが、私は、ブラジルへ帰化しましたが、息子たちは日本へ帰化しました。私たちがブラジルで自分たちの居場所を切り開いたように、私の母国で子どもたちがやりたいように、仲良く生きてくれたらいいと思っています。そして幸せになっほしいと思っています。



上:こしょうを乾かすようす  
下:移民が建てた文化会館。  
鯉のぼりが泳いでいる  
(1960年頃/トメアス)



上:田辺さんの家族。手前右側の少年は息子のトヨヒトさん(1974年頃/トメアス)下:豊橋ブラジル協会役員、会社社長として活躍する現在のトヨヒトさん(右)と田辺さん(左)。



来日8年目。相談を受けて大阪、富山、岐阜と飛び回るジェニヴァウドさん



来日11年目。子どものためにも自警団活動を行っている久保フェルジナンドさん



来日19年目。自身4人の子どもの持つ小田ロシアさん



もつと気楽に

# 「共生」

日系ブラジル人との共生は、少し考え方を変えたり、接し方を変えたりするだけで生まれます。すでに共生をしている人たちにそのコツを聞いてきました。

## 壁を作らず共生をしていく

### ■ 枠を作らない子どもたち

豊橋市内の小・中学校には日本で生まれた日系ブラジル人の子どもたちが多くおり、日本での居場所をうまく見つけられない子どももいます。

中野小学校の中島健治校長は、話してくれました。「おばあちゃんの出身地など、その子のルーツ（先祖）を聞くようにしています。すると、日本の地名が出てきて、日本とのつながりを見つけて緊張が解けます。日本の子どもも外国籍の子どもにも親近感を持つことができ、仲良く学びあっています。枠を意識しない子どもたちにとって、共生は、簡単なことなのです。私は、子どもたちに教えられました。」これから先、現在の子どもたちが社会に出る頃には、豊橋市は共生都市として、現在よりも機能していることが期待できます。

### ■ 笑顔で始める共生

豊橋市では、子どもたち以外にも、すでに共生をしている人たちがたくさんいます。学校や地域のための活動に取り組みながら、日本語が分からない人との通訳を引き受けてくれています。彼らがこのようなことに取り組んでいるのは、日本は自分たちの国でもあると感じているからなのです。日系ブラジル人の両親や祖父母あるいは本人などは私たちと同じ日本人です。多くの日系ブラジル人は、ブラジルで日本人としての誇りを持って育てられ、日本へのつながりを感じて来ます。国を越えた里帰り。豊橋市で頑張ろうと夢を抱いて来ています。

難しく「共生」と考えず、日本人と同じように日系ブラジル人とも気軽に笑顔で接してみましょう。



### 地域の相談役、 ジェニヴァウドさん

教会の神父でもあるジェニヴァウドさんのところには、宗教を問わず、外国籍の人だけではなく日本人も、悩みを持つ多くの人が訪ねて来るといいます。多くの人に慕われるジェニヴァウドさんに、日本で暮らす外国籍の人たちの悩みと、その手助けの方法について聞いてみました。

#### 「おはよう」から始めよう

楽しい行事が多い冬には、日本へ1人で来て一緒に過ごし話す相手もおらず、寂しくなって相談に来る人が多いです。近所で日本になれていない人を見かけたら、あいさつでも声をかけてください。最初の一言は緊張しますが、ここは勇気をだしてください。あいさつなら誰でも知っています。あいさつをされた人は、笑顔であいさつを返しますよ。

### 自警団で地域に安全・安心を 久保フェルジナンドさん

柳原住宅に住む久保さんが、自警団で自警団の団員として活動を始めるきっかけになったのは、奥さんが自治会などで通訳をしていたためでした。現在約15人いる団員のうち、ポルトガル語を分かるのは久保さんだけで、みんなから信頼されています。

#### 相手の話を素直に聞いて

自警団の仕事は、不審者のパトロールから柳原住宅が管理する駐車場の管理など、幅広いです。そして、特に問題になっている違法駐車は、ポルトガル語で注意をしてもすぐには理解をしない人もいます。どれだけ話しても、理解をしない人もいますが、相手の話しを否定せず素直に聞いてあげ、こちらも話すことやがよい関係ができます。

### 岩田小学校PTAで活躍 小田ルシアさん

小田ルシアさんが、中心になって企画した今年2年目になるブラジル料理教室での子どもたちは、親や友達と料理をしている間、ずっと笑顔で楽しそうでした。

見学に訪れていた前PTA会長の宮田さんは、ルシアさんはPTA活動に関心が高く、積極的に行動してくれるので頼りがいがあると話していました。



#### みんなで誘いあいましょう

子どものために活動をするPTAにみんな関心を持っていきますが、遅くまで働く親が多く、参加したくても参加できない人がたくさんいます。今回は、土曜日に計画したので去年よりも多くの人が参加してくれました。私は、みんなを誘いながら活動をするようにしています。日系の人にも声をかけて巻き込んでください。活動に興味を持っている人はたくさんいます。

### 豊橋ブラジルDay～Somos Amigos～友達になろう

**とき** 9月7日(日)午前9時～午後6時 **ところ** 豊橋公園 **内容** 日本・ブラジル文化の紹介、日伯伝統芸能コラボレーション(民踊、三味線、太鼓、サンバなど)、食べ物販売

#### ■日伯交流展

**とき** 9月7日(日)午前8時30分～午後5時 **ところ** 市役所1階ギャラリー **内容** 日系移民100年の歴史、豊橋とブラジルの都市との交流のようすなど **問合せ** 国際交流課(☎51・2023)

### ブラジル移民今昔物語～歴史と汗から～

**とき** 9月13日(土)午後1時～4時 **ところ** 市民文化会館(向山大池町) **内容** ラモス瑠偉さんの講演会や多文化共生をテーマにシンポジウムなど **定員** 490人 **参加料** 無料 **申し込み** 不要。ただし9月5日から午前9時～午後5時に(財)豊橋市国際交流協会、平日の午前8時30分～午後5時15分に国際交流課で配布する入場整理券が必要 **問合せ** 国際交流課(☎51・2023)

### 新しい取り組み 放課後子ども教室

豊橋市では、外国籍市民との共生社会の実現に向けて、市民と協働により5月から岩田小学校で、外国籍の子どもを対象とした放課後子ども教室を始めました。

言葉などのハンデを背負った子どもたちや日本の社会になじめない子どもたちへの学習支援など、放課後に安全で自由に遊べる場所を提供しています。

**問合せ** 青少年課(☎51・2855)



スタッフが絵本の読み聞かせをしているようす